

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

愛知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	中部学生リーダー研修会の実施	短大・大学生	2回以上の研修会を実施 参加人数100人以上
2	学生献血連盟によるキャンペーン実施	18歳～22歳の若年者	年2回以上の実施 参加600名以上で若年層10代20代の献血構成比35%以上にする
3	若年者献血セミナー	16歳～30歳の若年者	2回以上開催 参加者数 100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体	休眠団体、新規団体の献血実施50社
2	優良企業・団体の年複数回の献血実施	1稼働あたり85単位以上の企業・団体	12企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	協力者数 500名
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	協力者数 2,000名

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付時の400mL推進用資材作成	400mL献血対象者	1稼働当りの400mL比率85%以上
2	はがきによる400mL献血依頼	前回400mL献血者で間隔があいている方	応諾者数10000人以上

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

三重県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	学生推進協議会加盟の促進	大学・短大	2校以上
2	セミナー開催	専門・大学生・短大	3回 参加180名
3	若年層献血キャンペーン	18～29歳の若者	10代、20代献血者構成率33%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力団体・企業の開拓	献血未実施の事業所	20団体以上
2	ロゴマークの活用	献血協賛企業、団体に対し社会貢献活動に賛同企業	80団体
3	休眠状態の事業所の開拓	5年以上献血から参加していない事業所	20団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	500名以上
2	電話による献血依頼	電話依頼okの方、前回献血から一定期間未献血者	月70名(日祭日及び施設)を目標

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	大企業・官公庁での通勤時の呼びかけ	会社員、職員	10団体
2	電話による400ml献血依頼	400ml献血可能者(電話依頼okの方に不足時)	70人/月、年間800人

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	成分献血登録者の募集	条件を満たす献血者	100人/月を目標
2	電話による献血依頼	成分登録者	300人/月を目標
3	次回の予約依頼	成分献血者	10人/日、目標

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

滋賀県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	ふれあい体験学習	小・中学生	3回開催 参加500人
3	セミナー開催	短大・大学生	2回開催 参加300人
4	若年者献血キャンペーン	18～22歳の若者	参加500人以上 期間中の10、20代献血者 構成比50%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	新規・休眠中献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	10社新規等登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	母体・ルーム周辺の小規模企業・事業所	動員協力団体10社
3	成分献血協力団体・回数の拡大	新規及び既献血団体	10社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	10カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	3校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	近隣大学生への献血勧誘	母体の近隣大学生(立命・龍谷)	3人/日を目標に年間600人を確保する。
2	DM及び電話による献血依頼	母体・ルームの血小板成分献血者を含む全献血者	3人/日を目標に年間1,000人を確保する。
3	次回の予約推進	母体・ルームの血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

京都府赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	献血ルームでの献血セミナー開催	小学生高学年とその保護者	8月 10回開催 参加200人以上
2	若年層対象の献血セミナー開催	JRC加盟小学校～高校、看護学校	(JRC)2回開催 参加200人、看護学校7回 参加150人
3	若年者献血キャンペーン	府内 高校3年生	参加者数 300人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	献血協力企業の確保	献血会場周辺企業に対する献血協力の推進	5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	ワンモア献血「献血感謝カード」キャンペーン	献血ルームでの400mL、成分献血者	400mL献血者2,500人確保(実人数)と年間3回以上の成分献血者2,600人確保(実人数)
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数500人以上
3	メールによる情報提供	複数回献血クラブ会員	献血要請の内容ではないが献血啓発もねらい12回以上送信
4	健康相談事業・講演会実施	複数回献血クラブ会員及び一般献血者	健康相談事業・講演会各1回実施、事業実施の告知と併せ新規会員を募集(20人以上確保)
5	新規登録者募集キャンペーンの実施	一般献血者	キャンペーン2回以上実施、200人以上確保
6	情報誌の作製及び配布	複数回献血クラブ会員及び一般献血者	5000部配布、メール不着防止対策(300人)及び新規募集(200人)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から6カ月間未献血の400mL献血者	応諾者(実献血者数) 1,600人

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

大阪府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	はがき・Eメールによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数35,000人以上
2	セミナー開催	高校生・短大・大学生	2回開催 参加60人
3	献血おもしろゼミナール開催	小学生	夏休み8回開催 参加1,800人
4	若年者献血キャンペーン	高校の卒業生・短大・大学生	参加5,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場(ルームも含む)周辺企業	150団体
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	官公庁、献血推進団体	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	輸血用血液の在庫が不足時期に前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	30箇所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付時献血推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記①、③に含まれる
3	キャンペーンの実施	400mL献血可能者	応諾者数10,000人以上

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

兵庫県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	18歳の献血キャンペーン	県下の県立高校在籍の内、3年生約3万人	18歳の献血者数を4000人としたい(18年度3566人)
2	ともだち紹介カードキャンペーン	大学献血時など	1000人
3	ハガキによる献血依頼	〃	1000人
4	センタープラザ献血ルームのオープン	県下で若者の集まる最大の商店街に所在	16～29歳45%におく。※12/25開設以来の実績は16～29歳が452人で42.4%にあたる。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規、休眠献血協力企業・団体の確保	新規や一時中止献血協力企業・団体(の掘り起こし)	30団体
2	ロゴマークの提供	献血協力団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールはがきによる献血要請	複数回献血クラブ会員	随時応諾率 各20%以上
2	メールによる献血案内	複数回献血クラブ会員	年間12回以上
3	献血会場にてチラシリーフレットの配布	献血適格者	10000人以上
4	複数回献血クラブ会員募集はがきの送付	献血適格者	5000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	ハガキ・封書による献血依頼	前回400mL献血者	応諾献血者を15000人(19年度見込み13000人)
2	400mL献血のみの献血会場の実施	主に街頭献血会場	県下移動会場で80カ所
3	所内イントラによる200mL受入れの抑制	主に献血ルーム	供給必要総量を鑑みながら、不要な200mLを抑制し、400率を90%にする。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	献血ルームにおけるサービス	ルームにおける献血者	学生ボランティアとの連携によるハンドマッサージ等の献血者処遇

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

奈良県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	セミナー開催	高等学校、専門学校、短大、大学	3回開催 参加300人
2	施設見学、体験学習	小、中学生	10回開催 参加400人
3	はがきによる献血依頼	18～29歳の前回400mL献血者及び可能者	協力者 15,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	24社新規登録
2	休眠事業所、団体の再開の働きかけ	休眠事業所、団体	12社登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一年以上未献血者	応諾者(実協力者数)3,500人以上
3	事業所、団体の年間回数の増加	現在、年1回の事業所、団体	12ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
3	大学献血における400mL献血の推進	400mL献血可能者	県下短大、大学

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	予約制の推進	血小板成分献血者	1日5人を目標に年間800人以上
2	電話、はがきによる献血依頼	前回血小板成分献血者	上記に含まれる
3	メール会員による献血依頼	前回血小板成分献血者	上記に含まれる
4	イベント等の開催	献血希望者	母体、ルーム

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

和歌山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	学生献血推進協議会主催キャンペーン	大学生・専門学校生及び一般献血者	協力者350人以上
2	若年層セミナー開催	大学生・専門学校生	5回開催予定 参加者500人以上
3	ハガキによる献血依頼	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者数3,500人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血未実施企業	新規登録5社
2	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体による追加協力	動員・協力団体5社
3	休眠企業・団体の開拓	過去5年以上未実施の企業・団体	再開拓5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	会員へのメールによる献血要請の推進	複数回献血クラブ会員(メール会員)	月一回以上の要請
2	電話・ハガキによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数1,000人以上
3	企業の年間回数の増加	年1回献血協力企業	15社

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	ハガキによる依頼	400mL献血可能者(休眠者も含む)	上記複数回の対策に含まれる
2	高校献血での400mL献血の受入	400mL献血可能者	2校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	成分献血協力事業所への啓発推進	献血ルーム近隣事業所(含既献血団体)	1人/週を目標に年間50人
2	電話・ハガキによる献血依頼	過去に献血ルームでの献血経験者	1人/日を目標に年間300人
3	全血献血から成分献血への切替	当日ルームに来所された全血献血者	3人/週を目標に年間150人

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

鳥取県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	研修、セミナーの開催	高校生、大学生	5回開催。参加300人
2	若年層献血キャンペーン	18歳～26歳の若者	10回以上。参加1,000人以上
3	はがきによる献血依頼	18歳～29歳の成分献血、400mL献血可能者	協力者数10,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	緊急要請可能な企業の確保。	血液センター近隣の企業、団体。	動員協力企業30社
2	緊急時の献血協力団体の確保。	規模縮小等により献血実施できなくなった企業。	協力企業10社
3	定期的な献血協力実施企業の確保。	年3回、定期的に献血の協力を実施している企業。又は、今後協力いただける企業。	協力企業10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メール、はがきによる献血要請・イベント案内	複数回献血クラブ会員	協力者1,500人以上
2	街頭献血におけるはがきによる依頼。	前回献血から一定期間未献血者。	協力者3,000人以上
3	企業への年間回数の増加。	年1回及び2回実施企業。	10箇所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる依頼。	400mL献血可能者。	③複数回献血者確保対策に含まれる。
2	不足型別推進用資材の掲示。	全血献血希望者。	全血献血会場(街頭)に設置。
3	400mL献血推進チラシの作成、企業事前配布。	企業献血者。	一稼動36人
4	高校献血における400mL献血受入れ。	400mL献血可能高校生。	6校
5	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時等の精査	年3回以上実施企、団体。	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	電話による献血依頼。	既血小板成分献血者。	3人/日を目標に800人を確保する。
2	午前中の献血者確保。(献血者へのサービスの拡大)	全献血者。	午前中の採血人数8人を15人に増加する。
3	10人/週を目途に型別不足による、ハガキ依頼。	既血小板成分献血者。	3人/日を目標に700人を確保する。

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

島根県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	専門学校 短大 大学の学内献血実施	専門学校学生 短大生 大学生	学内献血を2回以上実施する。
2	高校献血	高校3年生	20校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺事業所	10社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数献血クラブ会員(メール会員400mL献血可能者)	応諾者数 200人
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	応諾者数 350人
3	事業所の年間回数、実施時期等の精査	年間2～3回実施事業所	採血間隔、年間採血量を考慮した献血計画の策定をする。

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	献血車は、400mL献血限定の受入	事業所 各種団体 高校 専門学校 短大 大学	配車台数390台
2	メール はがき依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	血小板成分献血者確保	血小板成分献血者	複数献血クラブ会員と成分登録者を合わせて300人を確保する。
2	電話 はがき メールによる献血依頼	既血小板成分献血者	献血者3,000人を確保する。

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岡山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	移動採血(運転免許センター)	18~29歳 新規運転免許取得者	2,500人
2	学生ボランティアの研修会開催	学生ボランティア	1回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	10社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	300人以上
2	はがきによる献血要請	前回から一定期間未献血者	3,000人以上
3	実施場所(企業団体)の年間回数の増加	年一回実施場所(企業・団体)	

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付時の推進資材の作成	全血献血希望者	街頭献血会場に設置
2	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期の精査	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の献血間隔を考慮した献血日程の策定